

カダstral・スタディーズ

FIG報告(2)

オープニングセレモニーとプレナリーセッション

2008年 6月 14日から 19日まで、スウェーデンのストックホルムにおいて、FIG（国際測量者連盟）第 31回総会（31st General Assembly）および 2008年作業週間（Working Week 2008）が開催されました。会報 8月号の FIG報告第 1回では、会議の概要と総会の様子をお伝えしましたが、第 2回の今回は、オープニングセレモニーとプレナリーセッションの様子をお伝えしたいと思います。



【オープニングセレモニー】

16日の 9:00、ストックホルム市会議場の議事堂（Congress Hall）において、スウェーデン王室近衛隊（Royal Guards）ブラスバンドによる演奏とともにオープニングセレモニーが開幕しました。

会議委員長 Svante Astermo 氏による歓迎の挨拶では、「世代間の統合（Integrating Generations）」というテーマにふさわしく、今回の作業週間には世界各国から多数の学生や若い測量専門家が参加している一方、1977年にストックホルムで開催された作業週間に参加していた顔ぶれも見られるということが述べられました。

FIG 総裁 Stig Enemark 教授による祝辞では、FIG は、UN-Habitat（国連人間居住計画）や FAO（国連食糧農業機関）などの国連機関や世界銀行と協力関係を築きながら、持続可能な発展（SD）やミレニアム開発目標（MDG）の達成に向けて貢献していること、そして、SD や MDG にとって重要な要素である、社会的公正・経済成長・環境持続性を支える社会の「骨格」を形成する上で、測量・土地の専門家が重要な役割を果たしているということが述べられました。また、国際的課題である貧困の撲滅については、経済成長・民主主義・自由をめざして所有（権）という概念・制度を途上国に導入することもひとつの手段であるが、西欧の土地登記制度では途上国の非公式なあるいは土着の土地権利に対処できないため、このような貧困者の立場に配慮した制度を提言・開発していく上でも、土地の専門家は重要な役割を果たし得るということが述べられました。さらに、土地・所有権・天然資源を含む土地統治（land governance）という言葉が紹介され、あらゆる環境問題は土地統治と土地管理（land management）に関係していること、そして、土地統治と土地管理は、高度な測地学・最新の測量および地図作成手段・持続可能な土地行政（land administration）制度を必要とするため、測量・土地の専門家にとって中核的な分野となりつつあるということが述べられました。

スウェーデン環境大臣 Andreas Carlgren 氏による開会の挨拶では、スウェーデンにおいては 2008年 6月より環境省が土地に関する業務を管轄することになったこと、測量専門家は貧困問題やスラム問題を解決



するためにも土地に対して重要な役割を担っていること、スウェーデン公認測量士協会（SLF）が創立 100 周年であることなどが述べられました。

続いて、Royal Guards ブラスバンドによる FIG ファンファーレの演奏を挟んで、UN-Habitat 常任理事 Anna Tibaijuka 博士による基調講演がありました。基調講演では、まず、1972 年にストックホルムの地において SD という概念が誕生し、UN-Habitat の創設につながったこと、そして UN-Habitat は創設以来 FIG と協力関係にあることが述べられました。また、SD に関する議論のなかで、都市化と気候変動は密接に関連しており、これらの課題に取り組む上で、測量・土地の専門家は重要な役割を果たし得るということが述べられました。都市化については、特に、アフリカやアジアの貧困地域における都市化がスラム住民の増大を招いているという現状や、そのスラム住民の土地権利が慣習に基づくもので法的に認められないことが多いがゆえに土地市場において有効活用できないということが指摘され、測量専門家の仕事は、貧困層への土地権利の付与に向けた制度改革にも関係してくると述べられました。気候変動については、都市のエネルギー計画・運営・消費が地球温暖化にとって重要な要素であることから、都市化の問題とは切り離せないということ、そして、急激な都市化や気候変動は地域レベルでの解決が必要な課題であるため、地方分権化や地方自治体の役割・貢献の強化が必要であるということが述べられました。そして、測量・土地の専門家は、持続可能な都市化のために、(1) よりよい意思決定・計画のための情報提供、(2) 災害リスクの低減、(3) 貧困国のための新しい土地制度、(4) 地方自治体の能力を強化するための土地評価と税制、(5) 次世代の測量専門家の育成と測量専門家によるボランティア活動の促進、(6) 望ましい土地統治の 6 点において力を尽くしてほしいと締め括られました。オープニングセレモニーの最後には、スカンセン（急激な工業化により伝統が失われるのを懸念し、スウェーデン全国から伝統的な建築を移築して造られた、1891 年に開園したストックホルム近郊の野外博物館）から来た 6 人の踊り子、2 人の伴奏者、1 人の語り手による民俗舞踊が披露され、王室近衛隊ブラスバンドによる演奏をもって閉幕となりました。

【プレナリーセッション】

引き続き 11:00 より、プレナリーセッション I 「持続可能な都市開発とミレニアム開発目標」がはじまりました。

まず、スウェーデン環境大臣 Andreas Carlgren 氏は、「環境と気候」と題して、次のように述べられました。スウェーデンは 2009 年に EU 議長として気候変動問題に取り組む。中国は現在、ヨーロッパの国々がかつて経験してきた以上の急激なスピードで発展を遂げており、途上国の都市化のあり方によっては気候変動に甚大な影響がある。ストックホルムが世界でも有数のクリーンな都市に転換した経験を踏まえれば、高効率な施設・交通や再生可能エネルギーによって経済的負担のない持続可能な都市発展を実現することも可能であろう。そして、測量専門家は、気候変動や環境モニタリングに関する情報の充実化、持続可能な土地利用計画や建物建設、貧困を克服する所有制度の確立において重要な役割を果たし得る。また、2005 年にスウェーデン南部をハリケーンが襲った際に信頼性の高い地図と測量専門家・地方自治体・電力会社・森林所有者の協力が災害復旧において非常に役立ったという事例や、さまざまな EU 指令を達成する上でデータ・情報の交換は不可欠であるという認識もある。EU はイニシアティブをとって GMES（環境と安全のためのグローバルモニタリング）を進めており、スウェーデン政府は国家的な衛星データベースの構築を、そして、スウェーデンの National Land Survey は政府機関などと協力して基本的な地理情報・所有情報を効率的に管理するための国家的な地理データ戦略を進めている。スウェーデンは土地測量分野で長い歴史があり、1628 年にグスタフ II 世によって測量組織の設立が命じられ、1800 年代には全国で土地



測量専門家は、気候変動や環境モニタリングに関する情報の充実化、持続可能な土地利用計画や建物建設、貧困を克服する所有制度の確立において重要な役割を果たし得る。また、2005 年にスウェーデン南部をハリケーンが襲った際に信頼性の高い地図と測量専門家・地方自治体・電力会社・森林所有者の協力が災害復旧において非常に役立ったという事例や、さまざまな EU 指令を達成する上でデータ・情報の交換は不可欠であるという認識もある。EU はイニシアティブをとって GMES（環境と安全のためのグローバルモニタリング）を進めており、スウェーデン政府は国家的な衛星データベースの構築を、そして、スウェーデンの National Land Survey は政府機関などと協力して基本的な地理情報・所有情報を効率的に管理するための国家的な地理データ戦略を進めている。スウェーデンは土地測量分野で長い歴史があり、1628 年にグスタフ II 世によって測量組織の設立が命じられ、1800 年代には全国で土地

改革（土地所有の再配分）が実施された。その際、重要な役割を果たしたのが National Land Survey であり、その土地改革はスウェーデンに経済的に持続可能な農林業・経済成長・貧困撲滅をもたらした。同様に、今日、世界のさまざまな地域で問題となっている食糧不足や土地争いを解決する上で、土地・所有の制度（特に土地の管理責任者を明らかにすること）は重要であり、経済成長のためには低価・迅速・安全な取引を保証する規制制度が必要である。特に、途上国の社会・経済発展のためには、国の事情に見合った伝統的な権利を活用した所有制度を確立し、知識・情報を得る権利や人々が土地や水を利用する権利を保証し、貧困を克服することが必要である。

次に、アフガニスタンの Institute of State Effectiveness 議長 Ashraf Ghani 博士は、「グローバル化する世界における法的権利の拡大」と題して、次のように述べられました。「貧困者の法的権利拡大に関する委員会」の研究成果として、少なくとも 40 億人の人々が法の支配から除外されているという現状が明らかになった。貧困は自然によるものではなく、公共政策・市場の失敗の結果であり、貧困者の権利拡大のためには、(1) 司法へのアクセス及び法の支配、(2) 所有権、(3) 労働権、(4) 商業権の 4 本柱が必要であると考えられる。また、貧困者の権利拡大のためには、グローバル化を抑制しなければならず、そのためには、(1) 国際的なシステムとの結びつきが弱い 40 -60 カ国において、きちんと機能する国家・市場をつくる、(2) テーラー戦略と、BRICS やその他の新興国とのパートナーシップ、(3) 企業をグローバルな開発協定に参加させる、(4) 地域安全保障と国際安全保障の関係や政治組織について考え直す、(5) 国家・地域・国際的な指導体制・管理に投資するという 5 つの挑戦が必要である。さらに、包括的なグローバル化を約束するためには、ネットワークガバナンスとしてガバナンスを見直すこと、住みやすい都市をつくる必要がある。ネイティブアメリカンのことわざを借りるならば、「我々は、祖先から地球を受け継いだのではなく、未来の子供たちから地球を借りている」のである。

最後に、FIG 総裁 Stig Enemark 教授は、「ミレニアム開発目標 (MDG) を支持する FIG と国連機関のパートナーシップ」と題して、次のように述べられました。土地管理 (land management) には、政治的目的を成就し SD を達成するために必要な土地・天然資源の管理に関連するあらゆる取り組みが含まれる。そして、RRR (Rights=権利, Property Restrictions=所有制限, Responsibilities=責任) を概念化するための基礎となるのが、土地行政 (land administration) 制度である。所有権の役割はますます増大しているが、適正な所有権制度が確立している国は、世界中でわずか 25 -30 カ国である。米国などの自由市場アプローチにしても欧州の中央計画アプローチにしても、将来の土地利用を統制するための所有制限があるように、SD には、しっかりとした土地政策枠組みと土地情報基盤に基づく土地利用の管理が必要である。MDG を達成するためには、そして、気候変動・食糧不足・エネルギー枯渇・都市発展・環境破壊・自然災害といった課題に取り組むためには、土地統治 (land governance) が欠かせない。その土地統治や土地管理は、測量専門家が重要な役割を担っている分野であり、FIG の試みは、MDG の第 8 目標である「開発のためのグローバルパートナーシップの構築」に資するものである。都市住民は年々増加しており、2007 年には世界人口 65 億人のうち 33 億人が都市部に居住している。詰まるところ、都市化の問題の鍵を握るのは、4P (People=人々, Politics=政治, Places=場所, Power=権力) であり、FIG は、そのような観点から、FAO、UN -Habitat、世界銀行とグローバルパートナーシップを築いている。特に、UN -Habitat とは、非公式定住 (informal settlements) の解決に向けて、社会的保有権ドメインモデル (The Social Tenure Domain Model)、すなわち、所有対象である Parcel (区画) と所有者である Person (人) を社会的保有権である Right (権利) で結びつけた地籍モデルを提言し、地籍の標準化を図るなどしている。望ましい土地統治には、将来変化を予測する高度な測地学モデル、管理・実行を支える最新の測量・地図作成手法、自然・人工環境に関する意思決定を支持する空間データ基盤、安全な保有権制度、持続可能な土地評価・土地利用管理・土地開発の制度、透明性の高いよい統治制度が必要であり、土地・測量専門家が手腕を発揮できる分野である。そのためにも、専門家の育成・組織的支援・国際組織との連携を通じて測量専門家の能力強化を図ることが FIG の役割である。

なお、17日の9:00-10:30にはプレナリーセッションⅡ「土地管理と財政制度」が、18日の9:00-10:30にはプレナリーセッションⅢ「技術的・組織的改革」が行われました。

【雑感】

オープニングセレモニー会場に入場行進してくる王室近衛隊ブラスバンドを目の前にして、ふと、ここは王国なのだということが気がつきました。北欧ということに気がつきました。北欧というと、すぐに、オーロラやフィヨルドといった大自然を想像してしまいましたが、スウェーデンといえ、中世からロシアやヨーロッパで力を振るった伝統ある王国です。プレナリーセッションの環境大臣の講演のなかでもグスタフⅡ世の名前が出てきましたが、彼は「北欧の獅子」とも呼ばれ、Wikipediaによれば、「スウェーデン王国最盛期の国王」で、「国内の司法・行政制度を整え、商工業を奨励し、教育の振興にも努めた」偉大な英雄だそうです。

そして、ストックホルムは、1972年に国連人間環境会議（世界113カ国の代表が参加した、環境問題に関する初めての世界的なハイレベル政府間会合）が行われた地でもあり、作業週間中、所々で、そのことが言及されました。休憩中に会議参加者と雑談するなかで、「最近ではFIGの方向性もずいぶん変わってきた」という声も聞こえてきましたが、ストックホルムという地が、それをますます加速させたのかもしれない。「国際測量者連盟2008年作業週間」という会議名からは想像もつかないほど、多角的な観点から測量・土地が捉えられており、環境問題や貧困問題など幅広い議論が行われていました。

次回10月号は、テクニカルセッションとクロージングセレモニーの様子をお伝えしたいと思います。